

なぜ塾生数を少なくしているのですか？

▶ 2023.7.21(金)

塾生数が少ないですねえ

「塾生の数が少ないのですねえ…」とよく言われます。
数専ゼミは24席を上限として指導しております。
1クラスではありません。塾全体の席数です。
単位は”人”ではなく,”席”です。
1人が週1コマずつ受講すれば、全体の塾生は24人となります。
ある人が週2コマずつ受講すれば、全体の塾生は23人、2人が週2コマずつ受講すれば
全体の塾生は22人となります。

塾生数に上限を設定する理由

なぜ、塾生の上限があるのかといいますと、
数専ゼミの指導方針の”専門塾だからできるきめの細かいゆき届いた指導”をするには、この人数が限度であるからです。

1日の指導人数が6人ということで、週4日の授業で合計24席となります。
「1日6人しか指導できませんか。」とよく言われます。
教科書や準拠問題集、あるいは、できあいの問題集を使って、解けない問題だけを教えているのであれば（ふつうの個別指導というのはこのようなものですが）、この2倍の生徒を指導できると思えます。

かけがえのない一人ひとりの教育に徹して

しかし、数専ゼミは、
前回の「学習記録」を個人ごとにコンピュータに打ち込み、この「学習記録」をもとにして、
①前回まちがえた問題を再学習させるための教材を印刷し、個々人の学習プリントの一番上にセットしておきます。
②先週よくできた問題はカットし、まちがえたり、理解が浅かった問題については、同じ考え方で解ける問題数を増やして教材を印刷し、個々人の学習プリントを再構成します。
（「問題集」のように、はじめから解く問題の内容やレベル、個数が決まっているわけではなく、学習の進度、到達点によって、フレキシブルに学習する内容、レベル、問題の個数などが個人ごとに、週ごとに変わります。塾での学習で効果を出すためです。）
つまり、その日の学習計画を個人ごとに設計し、指導に使う教材は、ひとりひとり異なった教材を印刷します。
③また、授業では、生徒の解いた全問題の正誤を記録し、まちがえたり、解けなかった問題を

ひとりひとりに個別に指導するため、1コマの授業では3人、1日で指導できるのは2コマまで、という限界があります。

これが”きめ細かくゆき届いた指導”ができるための上限である、ということです。

*「学習記録」の実物 → [Link](#) | 中1・方程式「学習計画書」 |

3日も休むのですか？

「週3日お休みなのですか、いいですねえ。副業はどうですか。」と勧誘をよく受けます。

勘違いをしては困ります。

授業がないだけで、塾の指導はあります。

生徒が家で自分で勉強していて、解けない問題が出てきたときには、FAXやメールで塾に質問をよこします。それに、1つ1つ答えて解答書を作り、Web上にアップロードしなければなりません。（質問への回答は数専ゼミのホームページ上に掲載され、共有されます。FAXやメールでの返信はありません。）

また、生徒に学習させる教材は、すべて、もれなく数専ゼミの自作教材なので、この作成、改訂を、この3日のうちにやっつけてしまわなければなりません。

教材は作って終わり、なのではなく、それで教えてみて、生徒がよく理解できないな、解けないと思われる部分は、直ちに改訂し、次の週の授業の提供しなければなりません。

等々、むしろ授業がある日のほうが仕事は”楽”です。

”ほんもの”の個別指導です

このように、数専ゼミでは、毎週、個々人の学習の到達点に応じた個別の学習プログラムと教材を準備して、個人指導をしております。

他人と同じテキストを使って”単に個人ごとに”指導する“似非個別指導”とはちがいます。

きめ細かなゆき届いた数学専門指導

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp